

第4回 Digital Innovation City 協議会 議事録

- 日時：2022年3月22日（火）16時～17時
- 場所：WEB会議
- 参加者：構成員8者各委員（3者代理）

■ 議事：

<Digital Innovation City 協議会のロードマップ（案）>

- 港湾局より、DIC 協議会のロードマップ（案）について報告
 - ・ 「少し先の未来を体験できる、ライブ・エンタメ分野を軸とした、出会い、つながり、共に創るまち」のキャッチフレーズを設定
 - ・ 具体的な事例として、技術を持つスタートアップとサービスを提供する事業者のサイクル、来訪者同士の出会いと関係作りのサイクル、来訪者が新たなサービスに出会い、地域のファンになって SNS で共有・拡散し、まちの認知や PR につなげるサイクルを想定
 - ・ 2025年にライブ・エンタメの象徴的なイベントが開催され、モビリティ・物流、防犯・防災、環境・サステナビリティの取組を連動して行うことで、まず来訪者が集まり、賑わうまちとし、2030年には商機を求めるスタートアップが集積することを目指す
 - ・ 地図上で2030年のゴールイメージを整理。また、アーキテクチャについても整理
- 主な意見
 - ・ 広告協定規制緩和については、各方面に調整が必要な事項であり、今後ご相談させていただきたい
 - ・ 公園内3Dマップはどのようなイメージを想定されているのか
 - ✓ 仕様等はこれからであり具体的にお示しできない状況。ただし例えば自動運転をするにも、3Dマップを作る必要がある。汎用的なマップを作り新規取組に使えるよう整備したい
 - ・ 公園とは、具体的にはシンボルプロムナード公園を想定か
 - ✓ シンボルプロムナード公園を検討している
 - ・ 2030年のまちの姿にBRTの記述があるが、既に虎ノ門からBRTをつなぐ計画があり、2030年整備では遅いのではないか
 - ✓ 2030年に整備するわけではなく、その年には存在している乗り物と想定
 - ・ スタートアップへはどのような施策を考えているのか。具体的にどこに集積するのか
 - ✓ 施策はワンストップ窓口や補助制度を想定、後ほど来年度の取組のところでご説明したい。集積エリアについて具体的に決めておらずお示しはできない
 - ・ ゴールイメージに用いている地図を2030年に想定される内容としてほしい。2030年に想定される施設・地図が下に敷かれれば、より建設的な検討ができると思う

<令和 4 年度 of 取組方向性、及び令和 4 年度 DIC 関連事業>

- 港湾局より、令和 4 年度 of 取組方向性、及び令和 4 年度 DIC 関連事業について報告
 - ・ 東京都臨海副都心 D X 推進事業補助制度【新規】
補助対象事業の（1）「臨海副都心におけるデジタルテクノロジーの実装に関すること」に「②デジタルテクノロジーを用いたにぎわいの創出」を新設
令和 4 年度は 4 月から審査受付開始、問い合わせ先は臨海開発部誘致促進課
 - ・ 自動運転プロジェクト【拡充】
来年度はエリアを拡大して実施。プロモーターを指定し、事業者を公募
 - ・ DIC ワンストップ窓口【新規】
窓口を臨海ホールディングス内に設置し、スタートアップから先端技術の実証に利用できる施設、公園、道路などに関する相談を受付
 - ・ 5 G 普及促進事業【新規】
5 G の活用策が分からないというまちの事業者に対し、ユースケースの紹介やヒアリングを行い専門家を派遣する等、まちの事業者と通信事業者間の調整を支援し、5 G の普及促進を促す
- 主な意見
 - ・ 例えばロボットの走行において警察などの各所との調整や申請が必要となる場合、ワンストップ窓口で調整は助けていただけるのか
 - ✓ 窓口が調整の間に入る形になればと思う。ただし、窓口に一言いえば解決するわけではないことはご理解いただきたい。一緒にニーズを探りながら進めるということとしたい。補足すると臨海ホールディングスが委託発注した事業者が窓口となり、一緒に運営する形になる

<その他>

- 協議会運営事務局より、今後のスケジュールを説明
 - ・ 既にご案内している令和 4 年度の企画提案に関して、提出の締め切りが今週末（25 日）。ご提出いただいたのち、順次皆さまにヒアリングを予定
 - ・ 次年度の第 1 回協議会（総会）は 4 月下旬を予定。それに先立ち、構成員の委嘱に係る書類を港湾局から 3 月中に送付予定

以上